

令和3年12月16日(木)

校長 多々納 雄二

### 3年生学年集会 激励の言葉

3年生の皆さん、お久しぶりです。多々納です。

4月の学年集会で話して以来、久方ぶりにこうして話す機会をいただき、嬉しく思います。年明けの1月に大学入学共通テスト激励集会在予定されていますが、当日は岡山出張で不在のため、このタイミングで皆さんへの「激励」を目的にお話しさせていただきます。

はるか昔、40年以上前のことですが、私自身が出雲高校3年生だった頃、たしか柔道場で開かれた激励会で、進路の先生からかけられた言葉がありました。共通一次試験と呼ばれていた試験の直前でした。

「模試の成績など某北高から大きく水をあけられている君達だが、大丈夫だ、安心せよ。なぜなら、君達は出雲の子。大事には必ず神風が吹く。」  
何の根拠もなく、普段の成績も心配な私達32期生でしたが、不思議に安心できたのを覚えています。出雲で学んだ私達には明るい未来が待っている、そんな気になれたものでした。

「神風に頼りなさい、期待しなさい」、今の段階でそう伝えたいものではありません。

まだ1ヶ月ある、できる準備はまだまだある。

試験本番までの過ごし方や準備の仕方については、担任の先生方から具体的にアドバイスされるでしょうから、私としては主に「心の構え方」について、3点伝えます。

一つは、「気をたしかに持つこと」です。

「気力」の気、そもそも気には力があります。全ての行動の元となる気を「元氣」、機に応じて真に発揮する気を「本氣」、どんな障壁に対しても挑もうとする気を「勇氣」と呼びます。

「元氣があれば何でもできる」。「本氣になれば突破できる」。「勇氣を持って挑戦しよう」。

二つ目は、「信じること」「自信を持つこと」です。

疑い始めればキリがない。自分がやってきたこと、身につけたモノが評価されるはず。あなたの代わりは誰にもできない。あなたがあなたを信じないであなたの全てを表現・発揮できるはずがない。何よりも「自分を信じる」こと。そして、「仲間と共にやってきたこと、支えてくれる先生や家族を信じる」こと。気を確かに持って、自分を信じ、やってきたことを表現しましょう。

三つ目は、「愛を大切にすること」です。

音で言う「アイ」とは、自分の「I」、仲間達との「高め、学び、支え合い」、家族からの「愛」であり、IZUMOの頭文字の「I」でもあります。支え合って、助け合って、今の自分がある。関わりのある方々への感謝の思いを忘れずに。あなたは一人だけど、一人じゃない。本番までの日々も、当日も愛を忘れずに。辛くなったら、苦しくなったら、その時こそ愛を思い出しましょう。

結びに、アメリカの文化人類学者、マーガレット・リードの言葉を紹介します。

それは「未来は、今である。」という言葉。

今の充実こそが未来をつくる。未来をことさらに不安視して、怯えたり、疎んだりするなかれ。未来を拓くのは、懸命に今を生きるあなた自身です。今この時々を大切にしてください。

負けるな73期生、出雲で学び成長した皆さんの明るい未来を信じます。頑張ってください。